

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	診療補助 技術論演習	1	30	2 年次	4 月	橋口清美 田渕 宏
授業概要 診療に伴う援助技術は医師の指示のもとに行われ、身体侵襲を伴うことが多く、対象の安全・安楽を守りつつ個別性に配慮しながら援助を行うことが重要である。ここでは、対象の治療・処置に伴って実施する基本的な援助技術について学ぶ。						
科目目標 検査における看護の役割を理解し、実施する基本的な援助技術を習得する。与薬に伴う看護師の役割を理解し、安全安楽に与薬ができるための知識・技術を習得できる。						
使用教材 テキスト：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術，メディックメディア 看護がみえる② 臨床看護技術，メディックメディア 参考文献等：川島みどり監修，オールカラービジュアル 基礎看護技術ガイド，照林社 任和子編，根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院						
評価 筆記試験 学習課題、レポートの提出状況 技術試験（筋肉内注射）						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
4 時間・2 回	1. 検査を受ける患者の看護 1)検査の目的と種類（検体検査、生体検査） 2)検査を受ける対象の心理 3)検査における看護師の役割 2. 生体検査時の援助 1)X 線、CT、MRI、内視鏡、超音波 2)心電図、皮膚反応、視力、聴力 3. 検体検査時の援助 1)尿検査の介助と実際 (1)尿検査の目的、方法 (2)尿検査の検体の取り扱い、検査の実際 2)便検査時の介助 3)穿刺時の介助（腰椎穿刺、骨髄穿刺） 4)血液検査の介助と実際 (1)血液検査の目的、方法 (2)血液検査の検体の取り扱い、検査の実際					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講期間	担当講師
専門分野 I	診療補助 技術論演習	1	30	2年次	4月	橋口清美 田渕 宏
時間・回数	授業内容					方法
4時間・2回	1. 創傷管理 1)創傷とその治癒 2)創傷治癒のための環境づくり 2. 創傷処置 1)創洗浄と保護 2)包帯法（目的・種類・方法） 【実技：包帯法】 3. 褥瘡予防 1)褥瘡発生メカニズム 2)褥瘡予防のための援助					講義 実技 【皮膚・排泄ケア認定看護師】
4時間・2回	1. 静脈血採血の実際 1)採血に必要な物品の取り扱い 2)駆血帯の取り扱い 3)注射器・注射針の取り扱い 4)採血の方法 【実技：シミュレーターを使用した採血】					講義 実技
4時間・2回	1. 与薬の技術 1)与薬の基礎知識 (1)薬物の基本的性質 (2)看護師の役割 2)経口与薬・口腔内与薬の援助の基礎知識と援助の実際 3)吸入の援助の基礎知識と援助の実際 4)点眼・点鼻の援助の基礎知識と援助の実際 5)経皮的与薬の援助の基礎知識と援助の実際 6)直腸内与薬の援助の基礎知識と援助の実際 7)注射の援助の基礎知識と援助の実際 (1)皮下注射、皮内注射 (2)筋肉注射 (3)静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射） (4)血管外漏出の対					講義
6時間・3回	1. 筋肉内注射の実際 1)筋肉内注射の方法（三角筋、中殿筋） 【実技：シミュレーターを使用した筋肉内注射】					講義 実技

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講期間	担当講師
専門分野 I	診療補助 技術論演習	1	30	2年次	4月	橋口清美 田渕 宏
時間・回数	授業内容					方法
4時間・2回	1. 点滴静脈内注射の実際 1) 点滴静脈内注射に必要な物品の取り扱い (1) 点滴セット (2) 三方括栓 2) 翼状針による点滴静脈内注射 (1) 針の固定 (2) 点滴速度の調節 【実技：シミュレーターを使用しての点滴静脈内注射】					講義 実技
2時間・1回	1. 輸血の目的 2. 輸血の種類(自己血輸血も含む) 3. 輸血の副作用とその対策 4. 輸血を受ける患者の心理 (インフォームド・コンセント、同意書含む) 5. 輸血の援助と方法 1) 輸血の準備 (1) クロスマッチ (2) 放射線照射 (3) 血液型不適合輸血防止対策 2) 輸血剤の性状、管理(新鮮凍結血漿、濃厚血小板) (1) 輸血バック、輸血セットの取り扱い (2) 輸血実施前・中・後の患者の観					講義
1時間・1回	筆記試験					
1時間・1回	技術試験					
備考 ○技術が習得できるように各自で練習を行う。 ○関連科目：解剖生理学、微生物学、薬理学、疾病論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、治療論、基礎看護技術論、 観察技術論演習、日常生活援助技術論・演習Ⅰ						